

# 心花

## 心も磨く

5月に入り、これからいよいよ体育大会へ向けた取り組みが本格化していく時期になりました。家庭訪問期間、放課後の時間を利用して、各団のリーダーは様々なアイデアを出し合い、演舞の練習をしていました。また、ダンスリーダーはまず自分たちがしっかり覚え、きちんと指導できるようにと真剣な眼差しで動画を食い入るように見て振り付けを覚えていました。

彼ら・彼女らはとても一生懸命に取り組んでいます。その表情からも、担任ではない私でもうかがい知れるほどです。それは、やはり、リーダーを自ら買って出た「主体性」と、これから前に立ちみんなに教えなければならぬ「責任感」がそのような真剣な表情をもたらしているのだと感じます。どんな活動においても、一生懸命の姿や眼差しはかつこよく、青春だあと感じます。

西南中では、日々一生懸命に取り組んでいるものがたくさんあります。前回の通信で紹介した「爽・研・美」の取り組みです。その中でも今回は「美」にあたる【無音掃除】についてお話しします。

「なぜ無音掃除なのか？」

よく耳にする質問です。ゴミをとって、床を拭いていく作業を、無音(無音)でする意味は何なのかを今日は一緒に考えていきたいと思います。

無音掃除の始まりは、車用品を取り扱うイエローハットの創業者である鍵山秀三郎さんから。鍵山さんは創業当時、心がすさんでいた社員の心を穏やかにするために、まず職場環境をきれいにすることが大事だと思われました。汚い環境では、社員に「ちゃんとしろ」と言ってもできるわけがない。まず私が環境を整えてから

伝えるべきことを伝えていこう、と思い立ったそうです。最初は誰にも命令せず、自分一人ですられていましたが、十年以上続けていくと、ようやく手伝う社員が出てきて、二十年経つと大方の社員が掃除をするようになっていきました。掃除活動が充実すると、業績はどんどん上がりました。

「自分の意思でやり始めると、俄然心が変わっていく。」鍵山さんは、掃除を通して5つの効用がある、と言います。

掃除をすると  
心が磨かれる  
謙虚な人になれる  
気づく人になれる  
感動の心が育まれる  
感謝の心が芽生える

まずは謙虚な人になる。掃除をやっていたら傲慢になったなんて人はいない。謙虚になると、接している周囲の人たちの対応が変わってきます。

2つ目に、気づく人になれる。いざ掃除に向き合うと、いろいろな汚れに気づきます。これまで平気でも、細部がよく見え気になるようになる。

3つ目に、感動の心を育む。自分ですると、きれいになったな、と実感します。この実感が感動なのです。

4つ目は、感謝の心が芽生える。感動するから、感謝する心が自然と湧いてきます。

最後5つ目に、「心を磨く」。心を外に出して磨くことはできないから、掃除を通して、間接的に自分の心を磨くこととなります。

おしゃべりしていると、気づけるものも気づけない。磨くチャンスを見逃さないためにも、無音で集中して掃除に取り組んで欲しい。だからこそ、西南中では無音掃除に取り組んでいるのです。無音掃除を通して、さらなる成長を期待しています。